

★3月号の特集は、わたしもみんなも おおきくなった！

コロナ禍で、誰もが感染リスクを抱えての不安な日々。子どもたちは三密をさけるためと、「時間」「空間」「仲間」が奪われ、さみしい思いをしました。保護者も保育者も、今までのようにつながれないことで、子育て・保育が大きく変わりました。①「できない」ではなく、「何ならできるのか」のポジティブシンキングが重要と気づき、②行事を実施する方法論を話すより、「なぜ、その行事をしてきたか」「その行事で大事にしてきたことは何か」を改めて振り返り、③つながるための工夫がいろいろと、④登園自粛中は、国の配置基準(施設面積も人員体制も)の倍くらいになり、子どもに寄りそい、ていねいな保育ができたことから、最低基準の貧しさを実感、⑤子どもはどんな状況であっても前しか向いていないことに気づき、おとなもやれることに最善を尽くすなど読者の声がいっぱい。

◆実践①は、京都市・たかつかさ保育園の「コロナ禍で見つけた新しいつながり」(24頁～)。今できることは何かと考えた「いつもと違う夏祭り」の取り組みです。保護者をお願いしたちょうちん・あんどんづくり、川柳大会、園芸の動画配信など。職員間で何度も話しあうなかで、「新しいことに挑戦できる機会」と気づき、職員の多彩な才能がかがやいたそうです。

◆実践②は、名古屋市・池内わらべ保育園の「みんなで創る保育園～コロナ禍の中での園舎建て替え事業」(30頁～)。1962年に愛知県初の共同保育所として開園。1976年に認可園となり、その園舎は2020年度で44年。園舎の老朽化と地域の保育需要の多さから建替えに。近くの土地のプレハブ仮設園舎に引越して、コロナ禍の中でも、プールや水遊び、年長児のお泊り保育などを工夫して実施。しかし、最低基準では2歳児の部屋は狭く、改めて最低基準の貧困さを実感。保護者からみんなで集まれないことへの問題提起があり、日中の保育の中で“こども夏まつり”が実現。新園建設のための建設委員会は、“つくろう会”に再編。保育園が大切にしてきたもの、大切にしていきたいものを未来へ引き継いでいくために動画を作成し、リモートで合同クラス懇談会を開催。これまでの夜間の懇談会よりも多くの保護者が参加。懇談会で動画を上映。保護者と保育者がつながり共同で保育をしていく意味をみんなで確認。「時代が変わっても、コロナ禍の中でも、昔と同じく、一人ひとりの思いを大切にしながら知恵を出しあい、話しあう中で、新たなつながりが生まれていくのだと感じています」と。

◎保育をどうふりかえり、組み立てるか～コロナ禍の一年で(小論)

(36頁～)：長瀬美子さん(大阪大谷大学)は、コロナ禍の中で得た「経験をふりかえり、子どもにとって快適な生活と楽しいあそびを保障するための保育を構想しなければなりません」と、四点のふりかえりの視点を提起。①保育内容・行事の「意味」を考える。②「本当に子どもたちに必要なことは何か」を考える。③「どのように実施したか」を考える。④「代替りの活動・方法」の中に可能性を探る。

長瀬さんは、「子どもの『今』はかけがえのないものです。今しかできないことがたくさんあります。だからこそ、制約がある中でも、少しでも安心できる快適な生活と夢中になれるあそびを保障しなければなりません」「これからを考える手がかりは今年度の経験の中にあります」「ふりかえりが大切」と。

そのために必要なことは、「①目の前の子どもの姿に目を向け、育ちと課題をつかむ、②保護者の願いに耳を傾け、寄り添う、③保育者みんなで考え合っていく、④可能な方法で学びあう、ことが欠かせません」と。

そして、「思いを出し合うことで保育者同士、保育者と保護者の信頼関係が深まり、不安を『納得』『共感』『安心』『信頼』に代えながらいっしょに乗り越えることができた」「まさに今年度は、『保護者とともに保育をつくる』ことを実践した一年だったのです」と。

最後に、「学ぶことの大切さ」について、研修・講座、会議、アドバイスなど毎日の保育の中にさまざまな学びがあるが、「ふりかえり」もその一つ。「可能な方法を使って学ぶことを大切にしながら、これからの保育に見通しと希望を見出すことが大切です」と。

★小特集は、コロナ禍での保育園をめぐる自治体の動き(44頁～)

コロナ禍は、児童福祉法第24条1項の保育実施責任を市町村がどこまで守っているかを明らかにしました。認可外保育園まで配慮している市町村は少数のようです。すべての子どもが安全で安心して保育されるように、また保育者が安心して保育に専念できるように、ご自分の市町村の施策を今一度確認しましょう。

★連載「2歳児の発達と保育」(78頁～)は最終回です。小川絢子(名古屋短期大学)さんは、0歳児、1歳児と合わせて36回、子どもの発達について執筆されてきました。子どもの発達を知る目的について、神田英雄さんの著書から①たくましく豊かな成長を援助し導くため、②『その年齢の子ども世界』を十分に保障するため、とされていることを紹介されています(84頁)。職員研修で活用するなど、バックナンバーを改めて読み直してみませんか。